

アジアゾウのかんさつシート

からだの大きなゾウは、どんな生活をしているかな？観察してみよう！

行動をチェック！

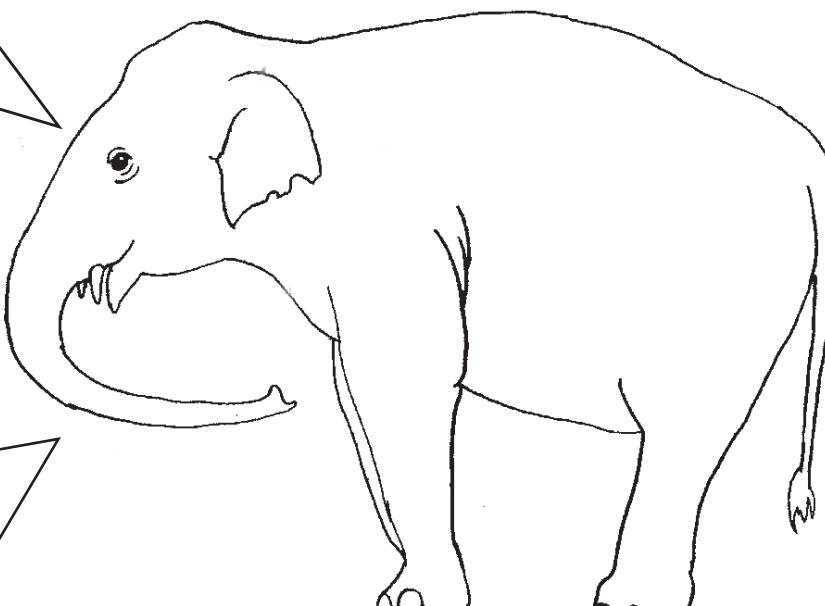
- ゾウの行動を観察してみよう。
見られたものに○をしよう。
- () じっとしていた
 - () 歩いていた
 - () 走っていた
 - () エサを食べていた
 - () うんちをした
 - () おしっこをした
 - () 砂あびをしていた
 - () 水あびをしていた
 - () その他

鼻をチェック！

鼻の動きを観察してみよう。
見られたものに○をしよう。

- () ゆらしていた
- () 鼻を高くあげていた
- () 地面のものをつかんだ
- () 砂を背中にかけた
- () 水を口に運んだ
- () からだをかいていた
- () エサをつかんで、口に運んだ
- () その他

ゾウの体高
わたし しんちょう
私の身長
cm cm
たいこう
かいさつ
ばい
倍



ゾウの体重
わたし たいじゆう
私の体重
kg kg
たいじゆう
かいさつ
ばい
倍

ゾウの耳はなぜ大きいの？ 考えてみよう。

学校名

名前

骨をかんさつ！

どうぶつかがくかん
動物科学館1Fにゾウの
こうかくひょうほん
骨格標本があるよ。

はな ほね
・鼻に骨はあるかな？
ある ・ ない

・しっぽに骨はあるかな？
ある ・ ない

自分より大きな動物を探そう！

↓自分より大きな動物に○をつけよう

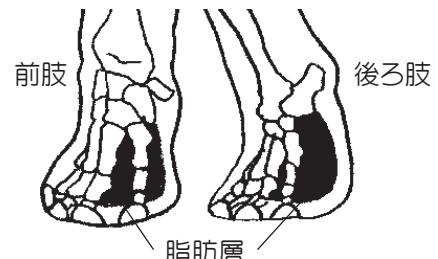
- () キリン
- () ダチョウ
- () バク
- () カリフォルニアアシカ
- () ハシビロコウ
- () ヤギ
- () カピバラ
- () ゴリラ
- () チンパンジー
- () オランウータン
- () フクロテナガザル

先生用 アジアゾウのかんさつシートと解説

ワークシートのねらい アジアゾウの行動を観察することを通して、動物への興味・関心を引き出すと共に、人間とのちがいやその理由について考えるきっかけとする。

アジアゾウ 長鼻目ゾウ科

- ・インド、スリランカ、東南アジアの森林に生息しています。
現在、開発による生息地の破壊、象牙や使役用の乱獲などによって、数が減っています。
- ・アジアゾウはメスとその子どもの群れで暮らしており、群れに発情したメスがいる場合はオスがそこに加わります。オスは単独で暮らしたり、若いオスで群れをつくることもあります。
- ・植物食で、野生では一日中食事をしています。
野生では、主に、草を食べていますが、木の枝、葉、樹皮、根、種子、果実なども食べます。動物公園では、青草やワラ、キャベツ、ニンジン、サツマイモ、リンゴなどを与えています。
- ・糞1個が約1.0～2.0kg。1日に約60～100個も出ます。
- ・大きさは、体重2000～6000kg、肩高2～3.5m。



大きなからだを支える肢

ゾウは陸上に生息する動物のうち、最も大きい。その大きなからだを支えるための4本の肢は太く、それぞれの肢には5指があり（蹄は前肢に5つ、後ろ肢に4つ）、かかとにある脂肪層がクッションの役目を果たしています。そのため、足の裏は柔らかく、神経を張巡らせているためとても敏感です。大きなからだを支える肢を怪我すると、立てなくなり、死にいたることもあります。そのため、肢を置くところの安全を確認するために、敏感なのです。また、足の裏の表面は凹凸があり、滑り止めにもなっています。

長い鼻はとても器用！

ゾウの鼻は、鼻と上くちびるが一緒になって長くのびたものです。鼻を上に上げて、遠くのにおいもかぐことができます。この長い鼻には、骨がなく、筋肉でできているため、自由自在に動かすことができ、物をつかんだり、引っぱったりすることができます。また、鼻の先端の上側には、指状突起が1つあり、小さな豆なども器用につまむことができます。さらに、鼻から水を約7リットルも吸い込むことができ、水浴びをしたり、口に運んで水を飲みます。このように、ゾウは長い鼻を人間の手のように器用に使って、いろいろなことをしています。

ゾウの祖先は今から約5000万年前に誕生し、その頃はブタくらいの大きさで、鼻も短く、水辺で生活していたと考えられています。その後、沼地から草原へやってきて、エサを取りやすいうように鼻が変化したと考えられています。



大きな耳の役割

ゾウの耳が大きい理由は、耳をバタバタさせて体温を調節しているからです。ゾウの耳には、細かい血管が網の目のようにひめぐらされており、体から流れてきた血液を、空気にあてて冷やすしくみになっています。耳の大きさは、住んでいるところによって違いがあります。アフリカの草原に住んでいるアフリカゾウは、アジアゾウより大きな耳をしています。暑いところに住んでいるゾウほど耳が大きいのです。

飼育員のコラム 『メスのアイちゃん』

アジアゾウのメス「アイ」は、1987年12月に4歳でミヤンマーより来園しました。少し臆病なところはありますが、人が好きで、私が来るとすぐに近寄って来ます。普段は健康管理を目的として、ターゲットトレーニングを行っています。例えば、合団と共に竹の棒で右側の前肢を指すとその肢を台の上にのせてくれます。この間に私達は蹄を洗ったり、削ったりするのです。「アイ」は野生ゾウのように泥あびが大好きで、雨が降っている時などは体中が泥まみれになり、翌日の体の手入れが大変になるんです。

